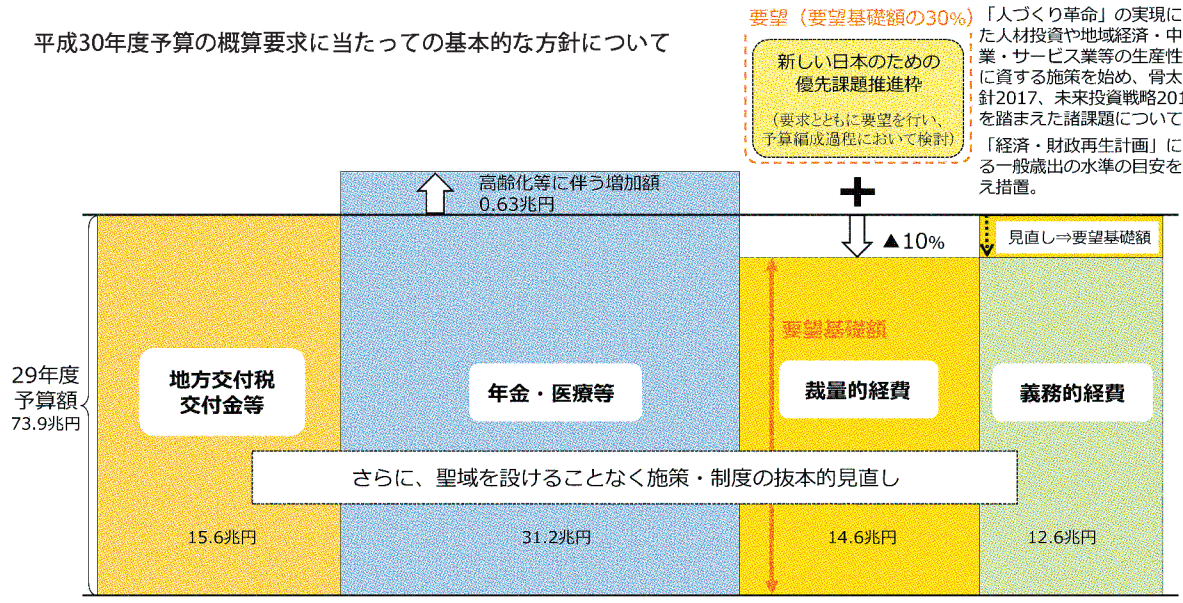
平成30年度予算の概算要求

基本的な方針を閣議了解

政府は、7月20日に「平成30年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」を閣議了解した。

平成30年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針2017」を踏まえ、引き続き、「経済財政運営と改革の基本方針2015」で示された「経済・財政再生計画」の枠組みの下、手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組む。歳出全般にわたり、平成25年度予算から平成29年度予算までの安倍内閣の歳出改革の取組を強化するとともに、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するとしている。

平成30年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について



※1　地方交付税交付金等については「経済・財政再生計画」との整合性に留意しつつ要求。義務的経費については、平成30年度の衆議院議員総選挙に必要な経費の増等の特殊要因について加減算。東日本大震災復興特別会計への繰入は、「平成28年度以降５年間を含む復興期間の復旧・復興事業の規模と財源について」に従って所要額を要求。

※2　「幼児教育・保育の早期無償化や待機児童の解消に向け、財政の効率化、税、新たな社会保険方式の活用を含め、安定的な財源確保の進め方を検討し、年内に結論を得、高等教育を含め、社会全体で人材投資を抜本強化するための改革の在り方についても早急に検討を進める」との方針を踏まえた対応については、財源と合わせて、予算編成過程で検討。

長陽大橋ルートが8月27日（日）に開通

～応急復旧により南阿蘇村中心部と立野地区との間の迂回が解消～

熊本地震で大きな被害を受け、大規模災害復興法に基づく国の代行事業として災害復旧を進めている長陽大橋ルート（村道栃の木～立野線）については、平成29年夏の応急復旧による開通を目指し、橋梁や法面などの復旧工事が進められてきた。

昼夜24時間体制で復旧作業を進めてきた結果、平成29年8月27日（日）に応急復旧工事が完了し、開通できる見込みとなった。

今回の開通により、南阿蘇村中心部と立野地区との間で生じていた大きな迂回が解消されることとなる。

位置図

道路橋示方書の改定について

「橋、高架の道路等の技術基準」（道路橋示方書）は、高速道路、国道の橋梁の設計に用いる基準であり、その他の道路橋の設計においても用いられている。昭和47年の制定以降、技術的な知見や社会的な情勢の変化等を踏まえて改定が行われてきているが、今般、制定以来の大幅な改定が行われた。

〈改定のポイント〉

▽橋の安全性や性能に対しきめ細やかな設計が可能な設計手法を導入

▽橋が良好な状態を維持する期間（設計供用期間）として、100年を標準とすることを規定し、その間適切な維持管理を行うことを規定

今回の改定により、安全性の向上、国際競争力の向上、技術開発・新技術導入の促進、ライフサイクルコストの縮減が図られるとともに、適切な維持管理による橋の長寿命化が期待される。

その基準は、平成30年1月1日以降、新たに着手する設計に適用する。（基準の内容は、国土交通省道路局ホームページで公表されている。）

http://www.mlit.go.jp/road/sign/kijyun/bunya04.html

名古屋環状２号線

平成32年度 名古屋西JCT～飛島JCT（仮称）開通

名古屋環状2号線は、名古屋市の外周部を通り、名古屋市を中心に放射状に伸びる名古屋高速道路や幹線道路を連結する都心から半径約10km圏に位置する環状道路である。自動車専用道路の名古屋環状2号線と一般道の国道302号が併設する構造となっている。

この度、名古屋環状2号線の名古屋西JCT～飛島JCT（仮称）の区間約12・2kmについて、工事の進捗状況を踏まえた結果、平成32年度の開通見通しとなった。この区間の開通によって、名古屋港への物流の効率化や産業の活性化が期待されている。

スマートインターチェンジ

新規事業化、準備段階調査の箇所決定

国土交通省は、産業振興や物流の効率化等の効果が期待されるスマートインターチェンジ※について、9箇所を新規事業化した。また、新たに9箇所で準備段階調査を実施する。

《スマートインターチェンジの整備により期待される効果》

▽周辺の産業拠点から高速道路へのアクセス向上による、産業振興・物流の効率化等

▽隣接するインターチェンジや一般道路へ集中する交通の分散による、周辺道路の交通状況の改善等

《準備段階調査について》

スマートインターチェンジの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について、国が調査を実施する「準備段階調査」を実施。

これにより、スマートインターチェンジの地方での計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られることが期待される。

※スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジ。

スマートインターチェンジ新規事業化箇所　一覧表

（単位：百万円）

スマートインターチェンジの名称（仮称）※1	連結位置	路線名	H29事業費※2	接続形式
菅生	宮城県柴田郡村田町	東北縦貫自動車道弘前線（村田IC～仙台南IC間）	6	SA・PA接続型
つくば	茨城県つくば市	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（常総IC～つくば中央IC間）	6	本線直結型
出流原PA	栃木県佐野市	北関東自動車道（佐野田沼IC～足利IC間）	6	SA・PA接続型
甘楽PA	群馬県甘楽郡甘楽町	関越自動車道上越線（吉井IC～富岡IC間）	6	SA・PA接続型
刈谷	愛知県刈谷市	第二東海自動車道横浜名古屋線（豊田南IC～豊明IC間）	6	SA・PA接続型
神坂	岐阜県中津川市	中央自動車道西宮線（園原IC～中津川IC間）	6	SA・PA接続型
城陽	京都府城陽市	近畿自動車道名古屋神戸線（宇治田原IC（仮称）～城陽IC間）	6	本線直結型
加茂BS	島根県雲南市	中国横断自動車道尾道松江線（三刀屋木次IC～宍道IC間）	6	本線直結型
坂出北	香川県坂出市	一般国道30号（本州四国連絡道路）（児島IC～坂出IC間）	6	本線直結型

※1　スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

※2　事業費は高速道路機構への補助対象分であり、地方が整備する高速道路の区域から既設の一般道路までの道路などは含みません。

スマートインターチェンジ新規準備段階調査箇所　一覧表

スマートインターチェンジの名称（仮称）※1	検討位置	路線名※2
若穂	長野県長野市	関越自動車道上越線（長野IC～須坂長野東IC間）
つくばみらい	茨城県つくばみらい市	常磐自動車道（谷和原IC～谷田部IC間）
下野	栃木県下野市	北関東自動車道（壬生IC～宇都宮上三川IC間）
蓮田（フル化）	埼玉県蓮田市	東北縦貫自動車道弘前線（岩槻IC～久喜IC間）
城端SA	富山県南砺市	東海北陸自動車道（五箇山IC～福光IC間）
岡崎阿知和	愛知県岡崎市	第一東海自動車道（岡崎IC～豊田東IC間）
東郷	愛知県日進市	第一東海自動車道（東名三好IC～名古屋IC間）
三木	兵庫県三木市	山陽自動車道（三木東IC～三木小野IC間）
味坂	福岡県小郡市、佐賀県鳥栖市	九州縦貫自動車道鹿児島線宮崎線（鳥栖JCT～久留米IC間）

※1　スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

※2　未開通のICは仮称です。

平成29年10月31日～11月1日

第32回日本道路会議開催

http://www.road.or.jp/conference

日本道路会議は、公益社団法人日本道路協会が主催する、道路の行政、建設、維持管理、都市計画および道路交通に取り組んでいる全国の関係者等が参画して、道路に関する広範な問題について研究成果を発表し、意見を交換するわが国最大の会議である。

昭和27年以降ほぼ隔年ごとに開催されている。関係者各位の参加を募集中。

【第32回日本道路会議における留意点】

1．参加申込・論文発表申込はインターネットを利用したオンライン申込を原則とする。

2．論文募集課題の構成は、6部門で編成されている。

3．論文集はDVD版で参加者全員に配布する。

4．当会議は、土木学会のCPD及び全国土木施工管理技士会連合会のCPDS対象プログラムとなっている。

【開催概要】

《日程》

平成29年10月31日（火）～11月1日（水）

《会場》

都市センターホテル
東京都千代田区平河町2-4-1

《主催》

公益社団法人　日本道路協会

《後援》

国土交通省

《参加種別》

①正員：道路、交通および都市計画に関係し、会議に参加の申込をした個人

②賛助員：会議の趣旨に賛同し、会議に参加の申込をした団体・法人等

《参加費》

会議に参加するには論文発表者・聴講者とも参加費が必要。

※参加費には資料代が含まれている。日本道路協会の会員・非会員にかかわらず参加可能。

◇個人

（学生）　3，000円

（一般）　10，000円、15，000円（当日受付）

◇団体　50，000円以上

※論文発表者は、改めて聴講申込をする必要はない。

※論文の連名者で会議に参加される方は聴講申込が必要。

《参加申込期限》

平成29年9月29日（金）

《申込・問合先》

公益社団法人　日本道路協会
第32回日本道路会議事務局
〒100-8955東京都千代田区霞が関3-3-1
TEL 03-3581-2211
E-mail dourokaigi@road.or.jp
詳細はホームページで。